

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600607		
法人名	有限会社三幸		
事業所名	グループホームさくらんぼ(チューリップユニット)		
所在地	島根県出雲市斐川町今在家403-1		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成27年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に200坪の畑を有しており、そこで出来た野菜の収穫はできるだけご利用者の方にしていただき、その野菜を使って食事も提供しています。また月に一度は定期的に外食にも出かけたり、苑のテラスで食事・お茶会をしています。傍らそれぞれの思いや身体状、認知症状に応じた個別のケアが求められていると感じ、個々のニーズに応じた個別のケアにも努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

斐川平野の土手の近く、県道の脇に、ホームは建てられている。居室やホール、廊下ともに、ゆったりとしたスペースで、利用者さんがくつろげるしつらえになっている。毎日のように、近くの神社や土手などに散歩するほか、畑での野菜作りにも精を出しており、足腰がしっかりしている方が多い。運営推進会議で、活発な意見が交わされており、ホームを解放しての七夕会や、毎月コミュニティセンターでのお茶会に参加するなど事業所内外での活動や地域の人々との交流も盛んになっている。毎年夜間想定防災訓練を利用者さん参加で行うなど、緊急事態にも備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示しており、職員会議では皆で唱和して常に意識していけるようにしている。	理念の中でも特に「和」を大切にしているので、利用者さんは、穏やかに集っておられるし、職員さんも、利用者さんが生き生きと暮らせるよう協力し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一回の地元コミュニティセンター主催の喫茶「縁」に行かせてもらうようになってから、地域の方々との合同七夕会やボランティア、久木地区の敬老会などにも参加したり当苑に来てもらえるようになったりとつながりが増えた。	毎日の散歩の際に利用者さんが、近隣の人々と挨拶を交わしたり、畑での野菜栽培などの姿を地域の人々は見守っている。開設して十年が過ぎ、すっかり、地域にとけ込んだホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設のデイサービスに通われている利用者さんのご家族からの、困りごとの相談にアドバイスしたりするなどの対応をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の方々の意見は素直に聞き、ケアサービスに生かしていると思う。	運営推進会議で、コミュニティセンターでのお茶会への出席を促されたことから、「縁」に毎月参加するようになり、地域の人々との交流が始まった。会議では、活発に意見が出され、ホームとしても意見を参考にして、よりよいケアの実践に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において市役所の方のご意見をお聴きし、それをサービスの向上に生かしている。	開設から、管理者は交代が無く、市の担当者とも顔の見える関係づくりができており、制度のことや、事例のことなど相談ができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がそれについての苑内研修に参加し、身体拘束について理解していると思う。玄関の施錠は勿論、居室やユニットの窓なども日中は施錠していない。	ホームは、解放されており、利用者さんは自由に行動できる。居室やホールにいても、それぞれ好みの場所にくつろぎ、落ち着いてすごすことができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っており身体的虐待は勿論、心理的な虐待にも気を付けて注意を払いながら介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数年前に成年後見については研修を行っているが、それ以降入職した職員も数名いる。また現在それらについて該当する利用者さんがいらっしゃらなく学ぶ機会も殆どなく認識しているとは言い難い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分な説明を行い理解、納得していただいた上でやってきた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推清会議の際に出席していただいたご家族様に、必ず事業所に対する意見、要望を気軽に表していただく様にしている。いただいた意見、要望については真摯に受け止め実践に生かしてきた。	家族さんが面会に来られたときには湯茶でもてなし、様々な話の中で、情報交換をしている。利用者さんの特技や好みなどを理解し、家族の思いなどもくみ取ってケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夏、冬期の賞与を渡す際に個人面接を行い、意見を聞く機会を設けそれを反映させてきた。給与、賞与などについては全職員について入職時よりアップしてきている。	職員さんは、利用者さんが自分らしい暮らしができるように常にふれあいの中でくみ取るようにしており、入居後、徐々にではあるが、編み物や掃除、炊事、畑仕事、洗濯物たたみなど、個々にあった作業などができるようサポートしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日頃から管理者を通し職員の実績勤務状況の把握に努め、向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修は認知症研修他、年に数回実施している。苑外研修については研修案内を全員が見て各人の意思により参加できるように日頃からしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲地域グループホーム協会主催の研修会や交流会には積極的に参加してもらっている。又、非特定ではあるが他のグループホームとは日頃から訪問したり、意見交換したり等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話をじっくりとお聞きし、なるべく不安にならないように寄り添いながらいい関係が築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの段階でご家族から十分に聞き取りを行い、ご家族にも安心して利用していただけるようにケアを検討し、お互い何でも言えるような関係づくりに努めている。また入居後においても面会などの機会に状況報告したり、必要に応じご家族に相談するなどご普段から重要視している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用(も含めた対応)に努めている	これまでは、地域の活動(喫茶縁)や当苑のデイサービス利用などその方に応じたサービスも検討しながら導入してきた。		
18		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食には同じ食事を一緒に食べたり、一緒に食事作りをしたり、行事に参加したりと基本的に一緒に何かをすることで楽しみを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	二か月に一回の状況報告書やさくらんぼ便りに写真を掲示して日常の様子を伝えたり敬老会やボランティア清掃などでご家族との関わりが途絶えないようにしている。また一年に一回の敬老会にはご家族にもご参加していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員だけではなかなか難しく、長年いらっしやると面会も減ってきたりなど関係が薄れてくる方もいらっしやる。利用者さん毎に出来る限り継続できるような支援方法を模索し行っている。	本人の自宅やお墓、あるいは行きつけのお店など、希望があればお連れしている。写真や、昔話など懐かしい話題にも心がけ、心のふるさとを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないよう、また一人一人の利用者さんの思いや個性を尊重しながら職員が間に入り関わるようしている。利用者さん同士で一緒に何かをすることが出来る方には、職員が見守りにて安全に生活できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先へ訪問しご本人が安心して生活していらっしゃる事を、これまでは都度確認してきた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の側に寄り添いながらとは心がけてはいるが、基本集団生活であり、長時間の個別対応が困難な場合も多く、場合によってはご家族にも相談しながらケアの方向性について検討している。	認知症が進んでいる方もあり、思いや意向をはっきりとは言葉で表現出来ない場合も多い。家族やケアマネージャー、関係者などからそれまでの暮らしや人生などを聞き取ったり、利用者さんとの会話の中から思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ずご本人とご家族に会い、これまでどんな生活環境や暮らし方をされていたかを聞き取りしている。入居後も安心して生活していただけるようにケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にあった過ごし方、どこまで出来る力があるのかを考えながらケアに努めている。無理なく有意義な気持ちで日々生活していただけるように現状の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングやその都度必要に応じカンファレンスを行い、現状に応じた計画を作成している。	利用者さんの個別のニーズに基づき、職員全員で意見を出し合い、家族も交えて話し合いをする中で作成した介護計画は、状況の変化に応じて変更し、検証している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録に記載して、どの職員も同じケアが出来るようにしている。情報は常に共有し、現状に変化あればカンファレンスや計画の見直しに生かしてきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や行動障害の出現など、その時々に応じカンファレンスを行い、それをサービスに生かし取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地元コミュニティセンター、民生委員さんなどの地域資源を把握、導入に努め参加していただきながら安全で豊かな暮らしをして頂ける様支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意思をまずお聞きし、その都度適切な医療を受けていただいている。	希望する診療機関を継続して受診できるようサポートしている。また、歯科医や皮膚科など、協力医の往診もあり、必要な医療が安心して受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科、精神科など必要に応じて電話、FAXにて上申し、指示に従い対応している。かかりつけ医は24時間対応していただいております。夜間の発熱などは適切な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は、入院先の病院の訪問に定期的に出向いたり、定期的にご本人の状況把握に努め、病院の関係者やご家族に状況をお聴きしながら連携を取ってきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合についての説明はしている。入居後は、状況に応じてご家族と相談し、今後の対応や方針について取り組んでいる。これまでに3名の看取りをしている。	家族と相談しながら、総合病院からの往診や、訪問看護を受けながら、また、家族の泊まり込みなども協力を得ながら、住み慣れたホームでの看取りをしてきた。今後も取り組んでいくつもりだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は、消防署による救急法を全職員が受講している。また急変時の対応を行った場合には、それについての振り返りを次回に備え行ってきた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害について年2回避難訓練を行っている。昼間、夜間想定を共に訓練し、全職員が身につけている。消防署の方から来ていただき協力体制を築いている。地元の方のご協力についてはできているとは言えない。	毎年、避難訓練をしてきた。今後は、夜間の人手の少ないときの避難態勢や、避難経路で段差がある所などの改善などに取り組んでいきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、左記のように対応しているが一部の利用者さんについては、つい友達言葉になる場合もある。	個別のお部屋で、プライベートな時間が持てるよう見守っている。排泄の誘導などもそれと周りに悟られることのないようにしている。ていねいな言葉で、その方の誇りを傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現できにくい方については個別対応により出来る限り思いを表していただくようにしている。またささやかではあるがお茶会時のお菓子や飲み物、着替えなどは出来る限りご本人に決めていただくようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に生活スペース、されたい事、出来る事など様々であり、その日その時の思いに応じた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整髪出来ない方は、ホールで必要に応じ介助で行い、鏡とくし(ブラシ)を準備してあげ、ご自分でくしでとかれたり、中にはお化粧される方もおられる。各人に応じたおしゃれの出来るよう支援に努めている。洋服選びもできる方にははしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、利用者さんと職員と一緒に盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭きなどを行っている。昼食は、職員も一つのテーブルを囲み同じ物を一緒に食べている。	ホームの畑で採れた新鮮な野菜を使い、利用者さんとともに作った食事を皆で穏やかに食している。ときには、外食、テラスや野外での食事や鍋、バイキングなど変化のある食事の機会をもてるよう心がけている。	お漬物など、みんなで取り分けれるものも取り入れることで、手作りの食事が、よりゆったりと楽しめる時間になるように期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態もミキサー食、刻み食を用意し必要に応じた食事形態にし提供している。また水分が少ない方は、ジュースやゼリーなどの提供、食事量が少ない方については量のチェックや体重の把握に努めるなど状態の低下が起こらないように日々努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼、夕食後は必ず口腔ケアをしていただいている。更に週2回ポリドントで除菌洗浄を行っている。出来る限り本人に磨いていただき、磨き残しなどは、後で職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため、定期的にトイレの誘導や声掛けするなど、オムツの使用は極力止め、トイレでの排泄に努めている。オムツ使用の方には、トイレに座っていただくなどできる限り排泄を促している。	排泄パターンを把握して、トイレでの排泄に心がけている。トイレは明るく清潔で、手洗いも励行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、クロレラ・バナナを摂取していただいたり十分な水分を取っていただけるように乳飲料、ジュース、昆布茶、番茶などの飲み物や、夏場はアイスクリームなどを提供しており、歩行訓練などで便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんどの方は隔日に入浴していただいている。ご本人に希望の時間を聞いたり、バイタルの状況により入浴時間を判断し入浴していただいている。	浴室は明るく、適度な大きさであり家庭に近いしつらえで落ち着ける。利用者さんは、ゆったりと入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方は、日中休んでいただき個々の状況に応じた対応をしている。日中、午睡の出来ない方の中には、職員が隣で添い寝をし、安心して休める様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている内容の説明を、個人ファイルでいつでも確認ができるように、共用和室のキャビネット内に置いている。薬の変更、臨時薬が変更された時は、職員が周知できるように連絡ノートや薬説明書などにおいて確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴、趣味的な事を引出し、個々に向いた活動内容ができるよう努めてきた。嗜好品については毎晩、時間を決めてお酒一合を出している方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩、お菓子の買い物、外食など希望された方には外出していただいている。月一回の外食は、利用者さんの楽しい外出となるように支援している。春から秋までの季節には外出支援を無理のないようにしてきた。	ほとんど毎日散歩は欠かさないので、利用者さんの足腰は弱っていない。買い物やドライブ、外食など個別対応でのお出かけもあり、変化のある活動的な生活となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解も得て、職員が付き添い、利用者さんの希望に応じた衣類や日用品の買い物をしたり、外食などしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑に電話がかかってきたらご本人につないでゆっくりお話していただいている。また年賀状をいただかれ喜ばれているかたもいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには生花を生けている。掲示板には、季節を感じていただける内容で掲示し季節感を取り入れている。温度調節も気を付け、過ごしやすい環境を作っている。	明るく清潔なホールや開放的な玄関、廊下には、目を楽しませる飾り付けがしてある。利用者さんの手による工夫が凝らされた物もある。庭や畑、テラスなど敷地も広く、のびのびとした空間に恵まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広く、ワンフロアの中にテーブル席、ソファスペース、和室などいつでも気が向く所で過ごしていただける様になっている。居室で過ごされたいときには思い思いに帰室され、自室で適度に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご自分の使い慣れた物を持参していただく様にご家族にお話をする事で努めている。畳がある居室は、そこに座ったり横になって過ごされ和まれている。	居室は、大変個性的であり、それぞれの利用者さんは自室でも一人の時間を楽しんでいる。来客も自室に案内して、もてなすことも出来る。部屋は明るく清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に表示を書き示したりトイレ内や廊下には手すりが設置され安全に配慮され台所はアイランドキッチンでいつでも自由に流しが使えるようになっている。		